

平成 22 年度

三浦こもれび

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472700556	事業の開始年月日	平成17年12月1日
		指定年月日	平成16年4月1日
法人名	株式会社ジャパウイン		
事業所名	グループホーム三浦こもれび		
所在地	( 238-0115 ) 神奈川県三浦市声町高円坊1452		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
		通い定員 名	
		宿泊定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計 9名	
		ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	平成22年10月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・のどかな田園風景に囲まれ、ホームの周りには広々とした庭や家庭菜園を 行うスペースがあり、季節毎に、果実や野菜の収穫を行うなどし、自分たちで作り、育て、食べる事への喜びを大切に、出きる利用者が、出来ない利用者同士助け合いながら、自分も役割を持ち役に立っている事への自信と喜びを感じ家庭的な雰囲気の中穏やかに暮らしている。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年11月10日	評価機関 評価決定日	平成22年12月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>&lt;事業所の優れている点&gt; ◇広い庭園に外気浴が楽しめるテーブルセットを置き、利用者は庭園でおやつを食べたりバーベキューを楽しんでいる。また、野菜畑では、職員と利用者が協力して数種類の野菜を作っている。野菜の栽培は、収穫の喜びだけでなく新鮮な食材にもなっている。 ◇開設時に比べて、利用者の介護度、認知度が進んでいるため、流動食の採用など食事内容に留意している。 ◇医療連携体制加算に加入して、看護師の24時間対応と協力医の定期検診、職員の研修で終末期への対応を強化し、重度化した利用者への受け入れ体制を明確化している。</p> <p>&lt;事業所が工夫している点&gt; ◇職員の意見・要望は、管理者が会議等で把握するほか、月数回来所する経営者が直接聴く機会を設けており、その場で即決して運営に反映している。 ◇職員の居室担当制を採用しており、利用者と日常的に接することにより相談や希望を直接聴き取り、利用者の変化をいち早く察知してサービス活かすよう支援している。 ◇利用者の情報を共有し使い易くする手段として、「申し送り事項」を始め「業務日報」、「介護記録」、「入居者記録書」を、一週間分まとめてファイルしている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 三浦こもれび
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

三浦こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・利用者に対し感謝の気持ちを忘れず利用者の個性と人格を尊重し、個々の能力が発揮出来るよう取り組んでいる。	・経営者、管理者と職員が話し合っ て創り上げた「こもれびの陽だまりー」 理念を全員で共有し、日常のケアに活 かしている。 ・ミーティングで理念を唱和していたが、 現在はケア会議や申し送り で、実例を通して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域で行うイベントや展示会等の参加の機会を多く持つようにし、地域に溶け込むように支援している。	・町内会に入会しており、地域の夏祭りなどの行事に積極的に参加している。 ・散歩の折、地元の人々と挨拶を交わし野菜をもらったりしている。 ・三味線やフラダンスのボランティアが定期的に訪れて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・利用者の家族、親戚、来賓者等からの相談を多く受けるようになり、又近隣の方より色々な相談も受けるようになって来ている、出きる限りの支援策をお話し、相談窓口をお伝えするなど支援を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者の状況、ホームでの活動報告等を行うと共に、民生委員、ご家族の要望助言等を早期に取り入れサービスの向上に反映するよう取り組んでいる	・運営推進委員会は、原則2か月毎に開催し、利用者や家族、民生委員が出席して、管理者の活動報告後、参加者が自由に意見交換している。 ・出席者からの助言や要望は、その後のミーティングで検討しサービス向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・書類提出は、郵送やFAXではなく直接役所に出向き提出し、相談等も積極的に行いサービスの向上に取り組んでいる。	・毎月直接市役所に出向いて、入・退居者の状況を始め事業所の運営状況を報告し、また、担当職員と話し、問題点の相談にのってもらっている。	

三浦こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・出入り口は常時開放しており、日中は自由に出入りが出来るようにしてある。	・管理者が、ケア会議や朝のミーティングで身体拘束の事例等を説明しており、拘束は行っていない。 ・玄関は日中は開放している。利用者が外に出たとき、さりげなく声掛けし、利用者の意思を尊重して一緒に散歩している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・小さな虐待も見逃さないように、職員同士声を掛け合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・家族の必要性に応じて、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・事前に文書にて説明し、了解を得るようにしている。 ・来館時に不安や疑問点がある時は再度説明を行い、理解を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・話しやすい雰囲気作りを心がけ、意見、要望、問題点を速やかに対応出来るようにしている。	・苦情や相談の窓口は、重要事項説明書に記載しており、契約時に説明している。 家族の来訪時には、要望や意見を聴きとっている。 ・出された要望・意見は会議で検討し、サービス向上につなげている。	

三浦こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを行い、意見、要望など話し合う機会を設けている。	・職員会議を通じ職員の意見や要望を聞いて運営に反映している。日射しが強いので、職員の意見で日除け設備を設置した事例がある。 ・経営者が、研修の講師などで訪れたとき、職員と直接会話を交わし意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者、役員、統括管理者が月に何度か来館し、研修会を行うなどし、要望、意見、相談を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修を受けやすいシフト作りを心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・グループホーム連絡会の勉強会や研修に参加しサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人、ご家族の思いを受け止め、安心して頂くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族が求めている事、不安に思っている事柄を理解し、事業所として何処まで対応出来るかを説明し、納得して頂ける様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・状況を把握、確認し可能な限り柔軟な対応に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の残存能力を十分に活かし、協働しながら食事作りをしたり、暮らしの知恵を頂いたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・入居者の様子や状況を詳しくお伝えし、要望等を伺い、職員の思いも交え支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人が気軽に何時でも気軽に訪問出来るように心がけている。	・利用者が通っていた美容院の美容師に出張サービスにきてもらうなど、関係の継続に配慮している。 ・友人の来訪時には、面会スペースを用意し、管理者は友人にも事業所の行事などへの参加を呼び掛けている。	

三浦こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日常生活の中での関わりを多く持ち、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・電話での相談や、年賀状での挨拶を行い、必要に応じて訪問を行ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ご家族の情報だけではなく、縁者、多方面の関係者からの情報も得るようにし、ご本人の意向に沿うようにしている。	・職員は日々の関わりの中で会話を通じて信頼関係を作り、利用者の思いや意向を把握している。 ・会話が困難な場合には、利用者の素振りや振る舞いなどから意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に利用されていた訪問ヘルパーやケアマネージャー、ソーシャルワーカーからの情報を伝えてもらえるような関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居者の生活リズムを早期に把握し、小さな変化も見逃さないように努めている。		

三浦こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人や家族には、訪問時や、日頃の関りの中で思いや意見を聞き介護計画に反映させるようにしている。	・ケアマネジャーが、利用者や家族の意見・要望を把握し、毎月開催する会議で職員と意見交換して、現状に即した介護計画を作成している。 ・介護計画は、原則3か月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人ファイルに日常生活の様子や、本人の言葉、排泄状況、食事摂取量、水分摂取量、身体状況を記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・出きる限り柔軟な対応に心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・事業所として可能な限りの対応を行い、穏やかな生活が保たれるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・医療連携が確立されていて、月一回の往診と適時の受診があり、主治医と事業所との連携が出来ており、適切な医療が受けられるように支援している。	・家族の意向を尊重して、希望に応じてかかりつけ医の受診を継続している。通院は原則家族に依頼している。なお、ほとんどの利用者は、入居後に事業所の協力医に変更している。	



三浦こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療連携による、一週間に2時間の訪問看護があり、利用者の健康維持、相談等適切な看護を行って貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・長期入院によるダメージを防ぐ為、入院先の医師、看護師、家族の意向を元に早期退院に向けたためかかりつけ医との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合の対応、終末期のあり方について、利用者と家族の意向を踏まえ事業所とかかりつけ医とその時の状態に合わせた話し合いを行っている。	・重度化や終末期のあり方については、入所の契約段階で「終末期の意向確認・同意書」を家族に説明し同意を得て対応している。 ・同意書に基づき医療機関、看護師、家族、職員と緊密な連携をとり重度化した場合に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・地域で行う救命講習会に参加すると共に訪問看護師に初期対応処置を聞くようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災訓練を行い、利用者と共にシュミレーションを行い、災害時は近隣の住民に協力をお願いするなどしている。	・消防署の指導を得て、夜間を想定した訓練を行い、職員は自分の役割を再確認している。 ・災害に備え、食料、水、防寒具などを備蓄している。 ・地域の人々に訓練に参加を呼びかけているが、参加には至っていない。	地域との防災協定の締結については、運営推進委員会のほか、事業所から地域の避難訓練に参加するなど機会を通じて、要請されることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員の意識向上を図り、言葉かけや対応が配慮した物であるように徹底している。	・職員は利用者の尊厳を守り、プライバシーを損ねる言葉遣いや態度をしないように配慮している。 ・個人情報が含まれる書類は、事務所の所定の場所に施錠し管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・居室担当を決めてあり、相談や希望を話せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・朝食後に当日の行事内容をお話し、出きる限り個人の希望を取り入れ支援を行う様取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・適時訪問の美容師さんによる、カット、パーマ、毛染めなどを行い、お化粧をしたり、おしゃれを楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事作りや、配膳、下膳を手伝って頂いたり、職員も含め全員で食事を摂るようにしている。	・新鮮な旬の食材を取り入れた献立を、職員が交代で調理している。 ・職員は、利用者と同じ食事をしながら会話を楽しんでいる。 ・庭園内で、利用者と一緒に収穫した野菜や果実を食材として提供している。	

三浦こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・主治医、看護師と相談を行い、利用者に合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・訪問歯科医師によるメンテナンスを行ってもらい、ご自分で出来ない部分は、職員による介助支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・尿意のない利用者でも、ポータブルトイレやトイレに座って頂き排泄して頂いたりし、職員が誘導介助を試みている。	・利用者ごとの排泄チェック表で、その人のパターンを把握してトイレに誘導している。居室でポータブルトイレを使用する利用者がある。 ・利用者のプライドやプライバシーに配慮した介助を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・乳製品、野菜を多く取り入れ、臥床時間を短くし、午前、午後に体操の時間を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・週二回の入浴日を行い、状態や本人の希望に沿うよう臨機応変に対応している。	・入浴は週2回午前中を原則としているが、希望によりシャワー浴、清拭と臨機応変に対応している。 ・入浴を好まない利用者には、機嫌の良いときを見計らうなどタイミングを逃さないように工夫している。	

三浦こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・利用者個々の睡眠パターンを把握しその人に合った支援を行う様になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員全員が理解していて、変化や変更があった場合は、主治医、看護師、管理者よりの情報が入るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節の行事、誕生会、ドライブ、個人の好物を皆で作ったり、食事の後片付け、洗濯物干しなど、個人の体調に配慮しながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族連絡を取り合い、墓参りや外食に出かけたり、地域の農園でみかん狩りや芋ほりなどが出来るように支援している。	・天気の良い日は、事業所の回りを散歩したりホームの庭園で花や野菜の世話をしている。 ・外出行事では、みかん狩りや芋ほり、外食等を実施している。 ・利用者の希望に応じて、買物や墓参りへの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・外食に行った時や買物に出かけたときに事業所立替で現金を渡し買物をしていただくなどしている又小銭を常に所持して欲しい方には、家族了承の上所持して頂いている。		

三浦こもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・絵手紙を作り郵送したり、事業所の電話子機を利用し必要に応じて、掛けたり掛けたり出きるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に合わせて換気調節、空調調節、照明調節を適時行い、外の景色が見えるように配慮し、共用部分は何時でも自由に利用できるように配慮し居心地のよく過ごせるようにしている。	・居間には、手作りの作品や花を飾っており、居心地よく過ごせる工夫がなされている。 ・居室内に音楽を流したり、皆で撮影した写真を飾るなど、親しみやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用部分に和室があり、掘りごたつを囲み、気のあったもの同士が思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で慣れ親しんだ使いやすい家具を持参していただき、その人が落ち着いて安心して暮らせるように配慮している。	・居室では、昔からの使い慣れた、馴染みの家具を使用し、本人や家族の写真などを飾っている。 ・各室の採光状態も良好で明るく清掃で、整頓もゆき届いており、快適に暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下、洗面所、トイレ等の共有部分には手摺りを取り付けてあり、個人の居室で入り口には大きなネームプレートと個人が解り易い目印になる飾り付けをしている。		

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 三浦こもれび作成日 平成22年12月10日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	(災害対策) ・地域との防災協定の締結が取れていない。 消防署の協力を得て、ホーム内での訓練は行なっているが、地域の訓練等に参加していない。	・地域町内会の組長さんの協力を得る。	・ホームのオーナーと地域の民生委員を通し、運営推進会議の折にお願いする。	3か月
2	49	(日常的な外出支援) ・利用者の体調、状況が影響し、色々な外出行事を予定するが、中止せざるを得ないことがある。	・利用者の希望を把握し、日常的に支援できるようご家族を含めて協力を得る。	・ボランティアに協力をお願いし、外出できる利用者への援助をお願いする。	3か月
3	50	(お金を所持し使うことの支援) ・支援できる利用者がどうしても限られてしまう。	・近隣のスーパーマーケット二、食材の調達時に同行していただき、買い物を支援する。	・職員2名が同行して支援する。	実施可能な利用者から対応する。
4					
5					